

[illegible]





CONTENTS

LEAPS AND BOUNDS	03
飛躍的な進捗	
THE 3As	05
3つのA	
ADVANCING PORTFOLIO	07
着実に進む製品開発	
ACCELERATING PARTNERSHIPS	11
加速するパートナーシップ	
ACCESS PRIORITIZED	13
患者に製品を届けるために	
FINANCES	17
財務報告	
LEADERSHIP	19
リーダーシップ	



LEAPS AND BOUNDS

飛躍的な進捗

Letter from Chair and CEO

2016年度、GHIT Fundの製品開発パイプラインは飛躍的に進捗をしました。また、2016年度はグローバルヘルスに対する強力なコミットメントが表明された年でもあり、これまで以上に世界の意志の強さが表れました。2016年5月に開催されたG7伊勢志摩サミットでは、日本政府はグローバルヘルスで主要な役割を果たす取り組みに対して11億ドルの支援を表明し、GHIT Fundと国連開発計画（UNDP）に対して1億3,000万ドルの支援を行うことを発表しました。これによって、日本は、世界の顧みられない病気に対する製品開発（R&D）への支援が揺るぎないものであることを世界に対して示しました。このコミットメントは、これまでに日本で開催されたG7・G8サミットの中でも、グローバルヘルス分野におけるレガシー（遺産）といえるものです。

さらに、GHIT Fundは、新たにグローバル製薬企業やバイオテクノロジー企業など10社を資金拠出パートナー・スポンサーとして迎えました。新たなパートナーの協力によって、GHIT Fundは大幅に投資能力を拡大しています。

そして、2016年8月にアフリカで初めて開催された、アフリカ開発会議（TICAD）において、日本はアフリカの未来に対する強い意志を表明するとともに、人々の健康と活力ある経済の関連性についても強調しました。

これらのコミットメントがなされた背景には、エボラ熱やジカ熱の大規模な流行が発生したことにより、グローバルヘルスR&Dの



上段左上から時計回り: 畑中好彦氏(アステラス製薬株式会社代表取締役社長CEO)、小坂達朗氏(中外製薬株式会社代表取締役社長最高執行責任者)、澤田拓子氏(塩野義製薬株式会社取締役専務執行役員)、相星孝一氏(外務省大臣官房地球規模課題審議官(大使))、トレバー マンデル氏(ビル&メリンダ・ゲイツ財団 グローバルヘルスプログラムプレジデント)、日下英司氏(外務省地球規模課題総括課企画官、国際保健政策室長)、石黒光氏(日本医療政策機構理事)、山谷裕幸氏(厚生労働省大臣官房国際課国際協力室長)、コー ヤン タン氏(モリソン&フォスター シニアカウンセラー)、キム ブッシュ氏(ビル&メリンダ・ゲイツ財団 ライフサイエンス・パートナーシップ ディレクター)、アン ヴェネマン氏(元国連児童基金UNICEF事務局長、元米国農務長官)、ピーター ビョット氏(ロンドン大学衛生熱帯医学大学院学長)、スリングスビー BT (GHIT Fund CEO)、黒川清 (GHIT Fund代表理事・会長)、山本尚子氏(厚生労働省大臣官房審議官)、クリストフ ウェバー氏(武田薬品工業株式会社代表取締役社長 CEO)、内藤 晴夫氏(エーザイ株式会社代表執行役CEO)、中山譲治氏(第一三共株式会社代表取締役社長兼CEO) ※所属及び役職は2016年6月7日時点。GHIT Fundの理事、マヒマ グトラ氏(バイオロジカル・イーリミテッド マネージングディレクター)、リチャード シーブルック氏(ウェルカム・トラスト イノベーションズ・ビジネス開発部門)は当日評議会を欠席。

重要性が改めて認識されたからに他なりません。効果的な治療薬、ワクチン、診断薬がいまだに存在しないことや、それらの製品をどのように患者に届けるのかというアクセスに関する課題を通じて、私たちにはまだやるべきことが山積しているということを改めて学びました。

GHIT Fundにとってアクセスは最重要事項です。今後、製品化が期待される治療薬、ワクチン、診断薬が効果を発揮し、かつ、それらを購入しやすい価格で患者に提供できるように、GHIT Fundは設立以来、継続的に取り組んできました。

2017年度、GHIT Fundは5周年を迎えます。グローバルヘルスR&Dを加速させようという私たちのモチベーションはこれまで以上により強くなっています。創造性、勇気、そして情熱を私たちに提供してくれている、製品開発パートナー、資金拠出パートナー、スポンサー等に対して深く感謝を申し上げます。

Kiyoshi Kurokawa

黒川 清
GHIT Fund 会長

BT

スリングスビー BT
GHIT Fund CEO



THE 3As

3つのA

ADVANCING PORTFOLIO

着実に進む製品開発

→P.07

GHIT Fundは、日本の卓越した技術とノウハウを活用して、感染症による疾病負担を劇的に改善し、近い将来に市場に出せるような治療薬、ワクチン、診断薬の開発に投資しています。GHIT Fundは民間企業で用いられるポートフォリオ・マネジメントの手法を用いることで、グローバルヘルスR&Dを着実に推進しています。

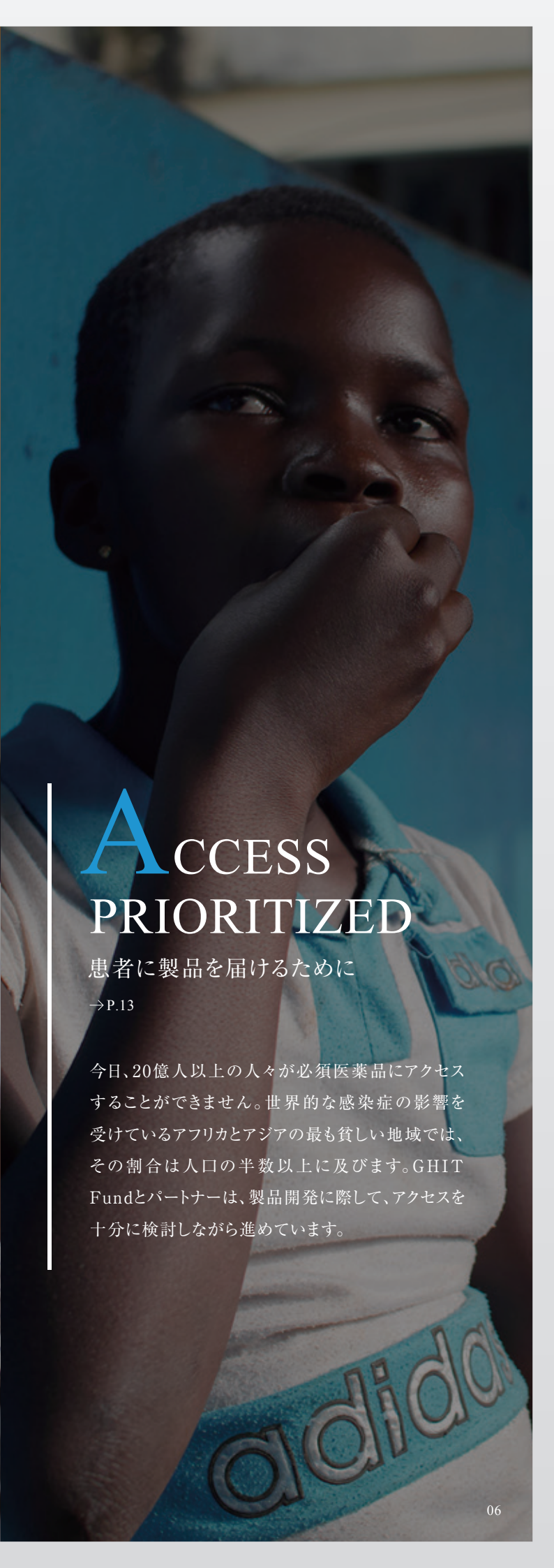


ACCELERATING PARTNERSHIPS

加速するパートナーシップ

→P.11

これまでに業種や分野を超えた横断的な連携、国境を越えたパートナーシップを通じてダイナミックな仕組みが構築されました。そして、この仕組みをさらに成長させていくことが極めて重要です。研究機関、民間企業、NPO、学術機関によるパートナーシップの多様性と、各機関がプロジェクトの達成に向けて協働しながら取り組む姿勢はGHIT Fundにとっての誇りです。



ACCESS PRIORITIZED

患者に製品を届けるために

→P.13

今日、20億人以上の人々が必須医薬品にアクセスすることができません。世界的な感染症の影響を受けているアフリカとアジアの最も貧しい地域では、その割合は人口の半数以上に及びます。GHIT Fundとパートナーは、製品開発に際して、アクセスを十分に検討しながら進めています。

ADVANCING PORTFOLIO

着実に進む製品開発

探索研究

標的研究プログラム



マラリア



スクリーニングプログラム



Drug



ヒット・トゥ・リードプログラム



Drug



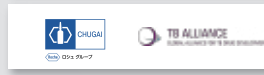
結核



Drug



Drug



Drug



Drug



Drug



顧みられない
熱帯病

シャーガス病 / リーシュマニア症



Drug



Drug



Drug



Drug

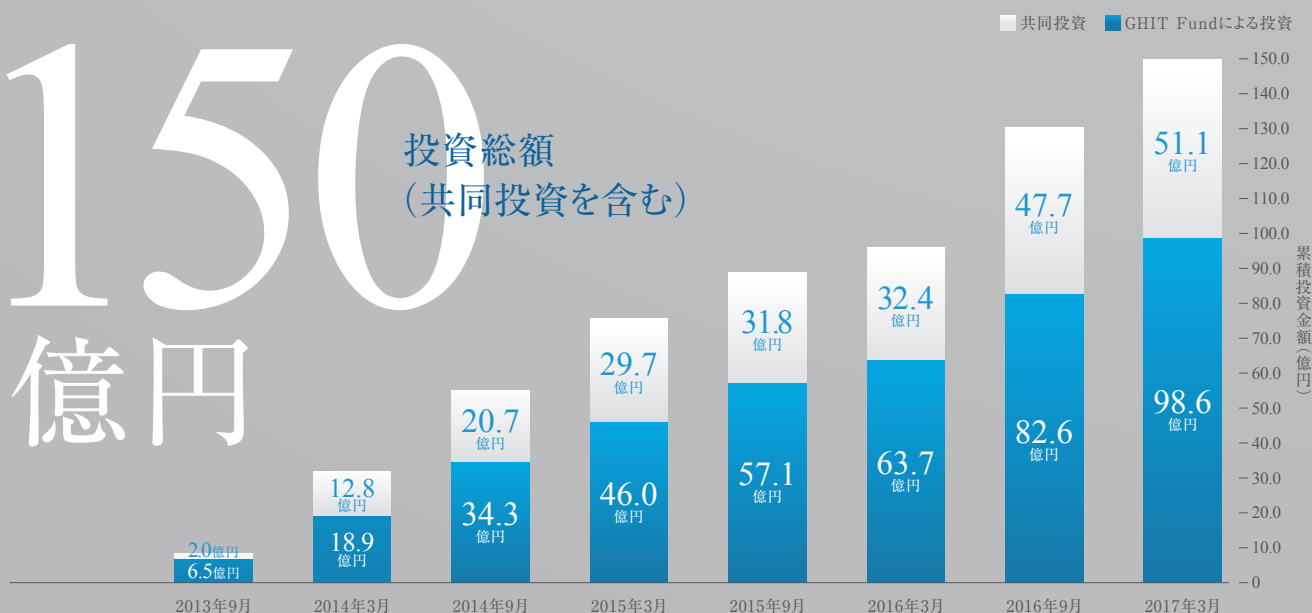


Drug



150 億円

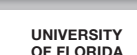
投資総額
(共同投資を含む)



このセクションでは、便宜上、1米ドル = 100円で計算しています。

非臨床試験

製品開発プログラム

 Drug	  	 Diagnostic	  
 Drug	  	 Drug	 
 Vaccine	 		
 Diagnostic	 		

臨床試験

製品開発プログラム

 Vaccine	    	Phase 1b
 Drug	 	Phase 2a
 Drug	  	Phase 2a
 Vaccine	 	Phase 2b

デング熱

 Vaccine	 	 Drug	 
--	---	---	---

リーシュマニア症

 Drug	 	 Drug	
 Vaccine	  		

土壌伝播寄生虫症

 Drug	   
---	---

シャーガス病

 Drug	 	Phase 2a
---	--	----------

住血吸虫症

 Drug	   	Phase 2b
---	---	----------

ADVANCING PORTFOLIO

着実に進む製品開発

過去4年間で、GHIT Fundは、日本のイノベーションと創薬能力を活用した61件のグローバルなプロジェクトに対して約100億円を投資してきました。2013年のGHIT Fundの設立以来、日本の39団体、海外の49団体が製品開発に参画しています。



治療薬

今日までに、Medicines for Malaria Venture (MMV)と日本の9団体、顧みられない病気の創薬開発イニシアティブ (DNDi)と日本の5団体、TBアライアンスと日本の9団体が提携して、GHIT Fundのスクリーニングプログラムを通じて、数十万もの新規候補薬物のスクリーニングが行われました。

この23件のスクリーニングプログラムのうち、8件がヒット化合物群を特定し、次の開発段階であるヒット・トゥ・リードプログラム (HTLP)に進んでいます。これまでに9件のHTLPのプロジェクトに対して投資を行い、1件のプロジェクトがリード化合物を同定し、非臨床試験に移行しました。具体的には、第一三共株式会社とMMVのプロジェクトが、スクリーニングプログラムから開始し、現在リード最適化の段階にまで進んでいます。

GHIT Fundはこれまでに、マラリア、シャーガス病、住血吸虫症を対象とした6件の治療薬の臨床試験に対して投資を行ってきました。抗マラリア薬に関しては、その作用機序や薬物動態は多種多様です。現在2つの臨床試験が進んでおり、武田薬品工業株式会社とMMVのパートナーシップは、ベルーにて、抗マラリア薬候補DSM265の第二相試験 (Phase IIa)を完了し、概念実証 (Proof of Concept)に成功しました。エーザイ株式会社、ケンタッキー大学、MMVのパートナーシップは、抗マラリア薬候補SJ733の第二相試験 (Phase IIa)を2017年から開始する予定です。

また、顧みられない熱帯病を対象にした臨床試験も順調に進んでいます。エーザイ株式会社とDNDiは2016年末からボリビアで第二相試験 (Phase IIa)を開始し、抗真菌薬であるE1224 (ラブコナゾール)と、既存薬のBZL (ベンズニダゾール)を用いたシャーガス病の併用療法開発を行っています。

さらに、GHIT Fundの製品開発パイプラインの中で最も先行するプロジェクトの1つである、小児ブラジカンテルコンソーシアムによる住血吸虫症の小児用製剤開発は、今後第三相試験に入る予定です。



ワクチン

現在、マラリア、結核、顧みられない熱帯病を対象とした7件のワクチン開発が行われています。大阪大学、欧州ワクチンイニシアチブ、ブルキナファソ国立マラリア研究センターは、マラリアワクチン候補であるBK-SE36に、水酸化アルミニウムゲル (AHG)をアジュバント (免疫賦活剤)として加えた製剤の第一相試験 (Phase Ib)を行い、その安全性を確認しています。今後は、K3 CpGと呼ばれる別のアジュバントを用いた製剤BK-SE36/CpGの安全性および免疫増強効果に関する試験をブルキナファソで行う予定です。

愛媛大学とPATHマラリアワクチンイニシアチブ、株式会社セルフリーサイエンスとフロリダ大学、それぞれのパートナーシップは、マラリアに感染した患者から蚊への原虫感染サイクルを断ち切る、マラリア伝播阻止ワクチン (TBV)のための抗原の最適化に取り組んでいます。TBVは既存の治療薬等と組み合わせることにより、薬剤耐性マラリア原虫の拡散防止や現在有効な対策の有効期間を延ばすことが期待されています。

結核ワクチンに関しては、東京医科歯科大学、ムヒンビリ健康科学大学、ダートマス大学ギーセル医学大学院が、タンザニアでDAR-901 (青少年向けの結核ワクチン)の第二相試験 (Phase IIb)を実施しています。ワクチンが結核発症を予防するかどうかを試験する大部分の臨床試験とは異なり、この臨床試験では、DAR-901がより早期に機能して、初期の結核感染を予防するかどうかを評価します。

12

非臨床試験
候補製品

6

臨床試験
候補製品

2

概念実証(POC)を達成

2017年3月31日時点

これら以外にも、デング熱、リーシュマニア症を対象にしたワクチン開発も進んでいます。



診断薬

現在、3件のポイント・オブ・ケア・テスト(POCT:患者の近くで検査を行い、その場で迅速に診断ができる検査システム)の診断薬開発が行われています。マラリアの診断薬が2件、結核の診断薬が1件あります。その中でも、パナソニックが主導するマラリアの診断薬、富士フイルムが主導する結核診断薬は、製品デザインの段階が終了し、現在はグルジア、ケニア、ベトナムなどで採取されたサンプルを用いた解析を行っています。



厳格なポートフォリオ・マネジメント

GHIT Fundは厳格なポートフォリオ・マネジメントを行うことで、製品開発を遅滞なく進め、そのスピードを加速させています。無駄にできる時間はなく、私たちは純粋な科学の発展ではなく、今必要とされる製品の開発に対して投資を行っています。GHIT Fundは多段階評価によってプロ

ポーザルを選定することで質の担保を図るとともに、GHIT Fundのマネジメントチームおよび専門家による、ステージゲートと呼ばれる進捗管理指標を用いたモニタリングを行うことで、製品開発を前進させています。私たちは、製品開発パートナーに明確な進捗を求めており、成果が見込めないプロジェクトについては直ちに中止しています。このように、民間企業が標準的に行っているような厳格なポートフォリオ・マネジメントをGHIT Fundが適用するのは、金銭的利益を求めているわけではなく、人の健康に貢献するためです。こうしたマネジメントの手法と、世界中の製品開発パートナーの不断の努力と相まって、確固たるポートフォリオを築きあげることができています。



共同投資戦略

第二相試験での概念実証を終えたプロジェクトは、GHIT Fundの投資のインパクトを増幅するために、他の資金提供機関から共同投資を受けることを必須条件にしています。この共同投資戦略によって、GHIT Fundが投資する製品開発プロジェクトは、グローバルレベルでの製品開発ポートフォリオの中に位置づけられることになります。

GHIT自体、重要なイノベーションの1つだと思います。グローバルヘルスの製品開発を推進するという目的で設立された、優れた官民パートナーシップの実例です。

マーク ダイブル

世界エイズ・結核・マラリア対策基金(グローバルファンド)前事務局長

ACCELERATING PARTNERSHIPS

加速するパートナーシップ



Product Development Partners

理化学研究所、マギル大学、Medicines for Malaria Venture (MMV)、トロント大学構造ゲノミクスコンソーシアム、メルボルン大学、顧みられない病気の医薬開発イニシアティブ (DNDi)

Intervention

抗寄生虫薬



マラリア、シャーガス病、リーシュマニア症およびクリプトスポリジウム症は、開発途上国に広く蔓延しており、多くの人々を死に至らしめる寄生虫病です。これらの病気に対する、新規の作用機序を持つ薬剤が一刻も早く待ち望まれています。治療に使用できる薬剤は限られており、また既存薬に対する耐性が問題になっています。複数の機関が参画する、このユニークなパートナーシップは、これらの病気を引き起こすそれぞれの原虫を死滅させる、少なくとも1つの強力なプロモドメイン阻害物質を同定することを目指し、薬物標的となりうる全く新しい寄生虫内のタンパク質を研究しています。このプロジェクトでは、ハイスループットスクリーニング、寄生虫学、構造生物学、タンパク質化学、および分子遺伝学などの、製品開発パートナーの専門知識を統合するとともに、構造的結合と増殖阻害データに対応してマラリア原虫のタンパク質に変異させるために、最新のCRISPR Cas9法という変異導入法を活用しています。



Product Development Partners

第一三株式会社、Medicines for Malaria Venture (MMV)

Intervention

抗マラリア薬



第一三共とMMVのパートナーシップは、マラリア感染を予防し、原虫の伝播を阻止し、薬剤耐性を防ぎ、2種類のマラリア（三日熱マラリア原虫と卵形マラリア原虫）の患者の再発予防を可能にする薬剤開発に挑んでいます。2013年6月に開始されたこのパートナーシップは、第一三共が設計した50,000種類の化合物をMMVがスクリーニングを行い、マラリア原虫を抑制する複数のヒット化合物群を同定しました。その後、2015年にこれらの化合物を試験し、2種類のリード化合物群を導出し、2016年には非臨床試験へと進んでいます。このパートナーシップは、GHIT Fundのスクリーニングプログラムから開始し、ヒット・トゥ・リードプログラム、製品開発プログラムへと連続して進んだ初のプロジェクトです。



39

製品開発に参画する
日本の機関

49

製品開発に参画する
海外の機関

61

プロジェクトへの投資

2013年度から2016年度までの累積



Product Development Partners

エーザイ株式会社、ブロード研究所

Intervention

抗マalaria薬



人間に感染する可能性のある5種のマalaria原虫のうち、熱帯熱マalaria原虫は最も重篤なマalariaの原因であり、現在使用されている抗マalaria薬に耐性を持っています。2014年、新規リード化合物の最適化を目的とした、エーザイとブロード研究所との連携が始まりました。急速な原虫消失期間、薬剤耐性株に対する活性、予防および伝播阻止効果を持つ薬剤の開発を目指しています。この研究*は、2016年にネイチャー誌に掲載され、マalaria研究コミュニティに向けて豊富なデータを公開するとともに、感染症創薬における化学的スクリーニングアプローチの有用性を示しました。

*Kato, Nobutaka, et al. "Diversity-oriented synthesis yields novel multistage antimalarial inhibitors," Nature 538, 344-349 (20 October 2016)



Product Development Partners

富士フイルム株式会社、
Foundation for Innovative New Diagnostics (FIND)

Intervention

結核診断薬



現在、十分な性能を兼ね備えた、シンプルで迅速かつ購入しやすい価格の、結核用のPOCT(患者の近くで検査を行い、その場で迅速に診断ができる検査システム)はありません。国家結核対策プログラムなどに携わる世界的なステークホルダーからは、喀痰を用いないPOCTの開発が最重要課題として提言されています。これに対応して、富士フイルムとFINDは、尿を検体とし、主に結核が重症化しやすいHIV感染者の結核を検査する、高感度で迅速、低コストの結核診断キットの開発を目指しています。このような検査キットの実現により、早期の結核治療が可能となり、結核による死亡率の低減と感染拡大の抑制につながります。富士フイルムは、検査キット試作品の開発、最適化、生産、ならびに独立した評価に必要な試作品の提供を担当し、FINDは、プロジェクト管理、監視、進捗報告を行っています。

ACCESS PRIORITIZED

患者に製品を届けるために

現在、世界人口の約3分の1の人々が必須医薬品へのアクセスができていません。医薬品の価格、保健システムの脆弱性、健康改善に対する政治的コミットメントの欠如、国際貿易や特許論争、持続可能性・信頼性の低い財務などの問題が複雑に絡み合い、必須医薬品へのアクセスを阻んでいます。治療薬、ワクチン、診断薬は、開発途上国の罹患率や死亡率の削減を目的としたほぼすべての公衆衛生プログラムの基盤です。そのため、GHIT Fundが製品開発に投資を行う際にはアクセスならびに、それらの製品をどのように患者に届けるのかということについても戦略的に検討しています。

DEFINE

アクセスは、GHIT Fundの創設の4原則の1つであり、私たちが行う事業の中核的要素となっています。GHIT Fundが製品候補に対する投資を検討する初期段階、すなわち外部審査員と選考委員会がプロポーザルを評価する段階からアクセスは評価対象になっています。

例えば、提出された製品開発のプロポーザルは、GHIT Fundが定義したターゲット・プロダクト・プロファイル(TPP)に沿っているか、最終的に治療薬などを使用する、1日1ドル未満で生活する開発途上国の患者のニーズに合致しているかなどを評価します。TPPを定義することで、必要とされる製品の仕様が明確になり、既存の製品や、製品開発パイプラインに存在する製品と比べて、新たに開発されるものがどの程度優れているのかを示すことができます。

DEDICATE

GHIT Fundは、購入しやすい価格で適切な製品を開発すること、そして人々の誰しもが入手可能な製品の開発を目指



しています。これらを実現するために、GHIT Fundはアクセスポリシーを設定し、製品開発パートナーに対して、「無利益・無損失の原則(No Gain, No loss)」に基づいて製品の価格を設定することを求めています。

GHIT Fundの製品開発パイプラインにおける各プロジェクトは、半年ごとにGHIT Fund内部で行われるポートフォリオ評価の際に検証されるとともに、理事会のポートフォリオ&上市戦略委員会でもアクセスに関する議論が行われます。

また、GHIT Fundはアクセス等の専門家と協力しながら、製品開発プロジェクトの厳格な管理・監督を行い、後期臨床試験を実施する製品開発パートナーが、製品の迅速な上市戦略を準備できるように指針を提供します。さらに、専門家の意見や助言と、科学的な専門知識、製品化に必要な化学、製造、および品質管理等の知見や、アクセスに関する戦略などを積極的に統合します。

製品開発の段階から入手のしやすさや価格設定を検討するために、GHIT Fundは製品開発パートナーと積極的に連携しています。また、GHIT Fundが投資している製品を



低中所得国に暮らす人々に、確実かつ迅速に製品を届けるために、GHIT Fundが製品開発パートナーとともに、薬事承認、価格設定、特許などのアクセスプランについて事前に協議を始めていることは特筆すべき点です。

ジャヤスリー アイヤー
医薬品アクセス財団 エグゼクティブ・ディレクター

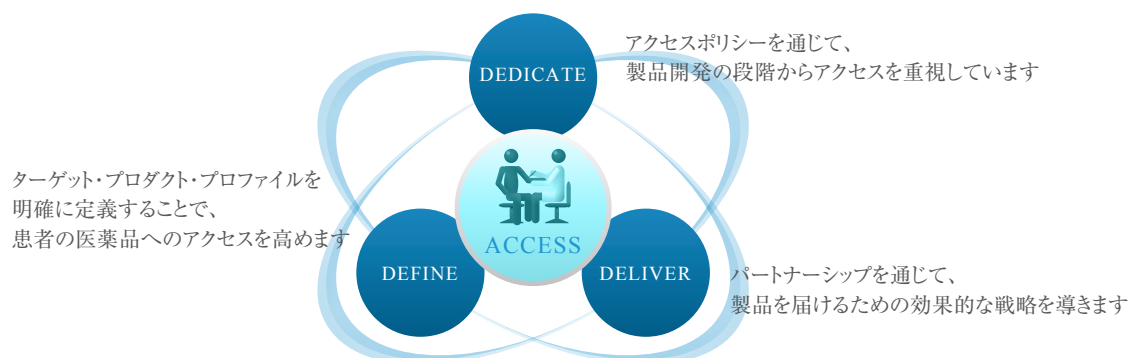
必要としている地域においては、保健システム強化に取り組む他のパートナーとも連携しています。

DELIVER

GHIT Fundは、製品開発の段階から患者に届けるまでの段階を結ぶ、日本政府の戦略の一翼を担っています。特に、UNDPの「新規医療技術のアクセスと提供に関するパートナーシップ (ADP)」とも緊密に連携しています。ADPを通じて、低中所得国が保健システムの課題を解決することによって、GHIT Fundが投資する製品をより多くの人々に、より早く届けることを目指しています。具体的には、治療薬やワクチンが利用可能になったとき、それらの製品を効果的に導入

および拡大ができるように現地の政府機関と協働して、医薬品のコンプライアンス、安全性評価、サプライチェーン管理、集団投与などの改善に向けた取り組みを実施しています。

GHIT Fundは今後、製品開発、アクセスと提供、保健システム強化の連携をさらに強化していくために、医薬品医療機器総合機構 (PMDA)、日本医療研究開発機構 (AMED)、国際協力機構 (JICA)、世界エイズ・結核・マラリア対策基金 (Global Fund)、ワクチンと予防接種のための世界同盟 (Gavi)、世界保健機関 (WHO)、国連児童基金 (UNICEF) などの国内外の機関との連携を検討していきます。



ACCESS ON THE GROUND

開発途上国のフィールドから



2016年10月インド・ハイデラバードで開催されたGHIT Fundの理事会に合わせて、GHIT Fundの評議委員団体と理事はハイデラバードの研究機関や診療所、病院などを訪問し、医師や患者と医療・公衆衛生における課題等について意見交換を行いました。

また、インドの製薬産業、研究機関、政府機関の指導者を招いたイベントでは、インド公衆衛生財団理事長で、著名な指導者であるスリナート レディ氏と、GHIT Fund副会長のピーター ピオット氏が対談を行い、製品開発やパートナーシップのあり方について、インドの視点から議論が交わされました。



私は「官民連携」を表す頭字語PPP(Public Private Partnership)を、「公共目的のパートナーシップ(Partnerships for Public Purpose)」と再定義したいと思います。私はPPPは絶対不可欠なものであると信じています。民間企業の創造性と効率性が、社会的優先事項を設定する政府の価値観や知恵と結びつくことで、適切な製品を開発し、提供することができるのです。

スリナート レディ
インド公衆衛生財団理事長

FINANCES

財務報告

独立監査人の監査報告書

平成29年5月2日

公益社団法人 ドローバルヘルス技術創興基金
理 事 会 謝 中

新日本有限責任監査法人

指定非執行社員 公認会計士 矢野弘道

<財務諸表監査>

当監査法人は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第23条の規定に基づき、公益社団法人ドローバルヘルス技術創興基金の平成29年4月1日から平成29年3月31日までの第5期の設備対前年度及び損益計算書（公益認定等ガイドライン1～5の1）の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。）並びにその附属明細書並びに財務諸表に対する注記について監査し、併せて、正味財産増減計算書内訳表（以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。）について監査を行った。

財務諸表等に対する理事者の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表等に関する重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表等の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表等の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表等の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、理事者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事者によって行われた見解の判断も含め全体としての財務諸表等の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産及び損益（正味財産増減）の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<財産目録に対する意見>

当監査法人は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第23条の規定に基づき、公益社団法人ドローバルヘルス技術創興基金の平成29年3月31日現在の第5期の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。

財産目録に対する理事者の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成することにある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

財産目録に対する監査意見

当監査法人は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

利害関係

公益社団法人ドローバルヘルス技術創興基金と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

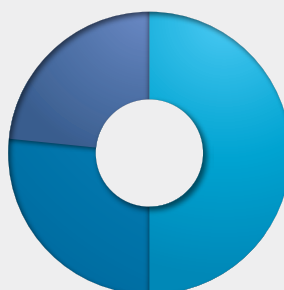
2016年度 決算書概要

貸借対照表

資産	百万円	百万米ドル
流動資産	¥367.1	\$3.3
固定資産	2,262.2	20.2
資産合計	¥2,629.3	\$23.5

負債及び正味財産	百万円	百万米ドル
負債合計	¥455.9	\$4.1
正味財産合計	2,173.4	19.4
負債及び正味財産合計	¥2,629.3	\$23.5

指定正味財産(資金調達額)	百万円	百万米ドル
受取補助金(政府、国際機関)	¥1,804.8	\$16.1
受取補助金(財団)	921.7	8.2
受取寄付金(企業)	841.2	7.5
指定正味財産合計(資金調達総額)	¥3,567.7	\$31.8



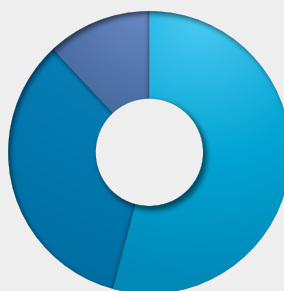
指定正味財産(資金調達額)

50.6% 受取補助金(政府、国際機関)
25.8% 受取補助金(財団)
23.6% 受取寄付金(企業)

正味財産増減計算書

経常収益	百万円	百万米ドル
受取補助金(政府、国際機関)	¥1,804.8	\$16.1
受取補助金(財団)	1,132.1	10.1
受取寄付金(企業)	391.9	3.5
経常収益計	¥3,328.8	\$29.7
前期繰越金	¥0	\$0

経常費用	百万円	百万米ドル
事業費	¥3,309.5	\$29.5
管理費	158.6	1.4
経常費用計	¥3,468.1	\$30.9



経常収益

54.2% 受取補助金(政府、国際機関)
34.0% 受取補助金(財団)
11.8% 受取寄付金(企業)



経常費用

95.4% 事業費
4.6% 管理費

当決算書概要の米ドル額は、便宜上、2016年度3月末現在におけるおおよその為替レートである1米ドル=112.19円で計算しています。

本概要は、新日本有限責任監査法人の監査に基づくGHIT Fundの監査済み財務諸表から抜粋したものです。

GHIT Fundは、公益社団法人として日本国内に登録されています。

LEADERSHIP

リーダーシップ

GHIT Fundへの資金拠出パートナーであり、かつGHIT Fundから製品開発の投資を受ける可能性にある製薬企業とGHIT Fundとの間に利益相反が生じないことを目的に、GHIT Fundには厳格なガバナンス体制が敷かれています。GHIT Fundに対する資金拠出パートナーである製薬企業は、GHIT Fundの投資案

件の評価や選定、ポートフォリオ・マネジメントなどの意思決定に関する一切の権利を放棄しており、その権利はGHIT Fundの理事会やマネジメントチームに委ねられています。このようなガバナンス体制を導入することで、基金運営の透明性、公平性を確保し、ステークホルダーに対する説明責任を果たしています。

評議会

[役割・機能] 評議会と理事会メンバーの選任又は解任／定款の設定と改定／理事の雇用条件の決定／GHIT Fundのためのアドボカシー活動／決算の承認



評議委員
相星 孝一
外務省
大臣官房地球規模課題審議官(大使)



評議委員
山本 尚子
厚生労働省
大臣官房審議官



評議委員
トレバー マンデル
ビル&メリンダ・ゲイツ財団
グローバルヘルスプログラムプレジデント



評議委員
スティーヴン キャディック
ウェルカム・トラスト
イノベーションディレクター



評議委員
アステラス製薬株式会社
畑中 好彦
代表取締役社長CEO



評議委員
エーザイ株式会社
内藤 晴夫
代表執行役CEO



評議委員
塩野義製薬株式会社
手代木 功
代表取締役社長



評議委員
第一三共株式会社
中山 譲治
代表取締役社長兼CEO



評議委員
武田薬品工業株式会社
クリストフ ウェバー
代表取締役社長 CEO



評議委員
中外製薬株式会社
永山 治
代表取締役会長 最高経営責任者

理事会

[役割・機能] 中期戦略の承認／年次計画・予算の承認／選考委員会の委員の選任又は解任／選考委員会の選定基準及び優先順位の承認／投資案件の承認



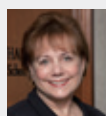
代表理事・会長
黒川 清
政策研究大学院大学客員教授
日本医療政策機構代表理事



副会長
ピーター ピオット
ロンドン大学衛生熱帯医学大学院学長
元国連合同エイズ計画 (UNAIDS) 事務局長



専務理事
スリングスビー BT
公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金
CEO



理事
アン ヴェネマン
元国連児童基金 (UNICEF) 事務局長
元米国農務長官



理事
マヒマ ダトラ
バイオロジカル・イー・リミテッド社
マネージングディレクター



理事
日下 英司
外務省地球規模課題総括課企画官
国際保健政策室長



理事
山谷 裕幸
厚生労働省
大臣官房国際課国際協力室長



監事
石黒 光
日本医療政策機構
理事



監事
コー ヤン タン
モリソン&フォスター シニアカウンセラー
元世界銀行副総裁兼法律顧問



オブザーバー
キム ブッシュ
ビル&メリンダ・ゲイツ財団
ライフサイエンス・パートナーシップ
シニアアドバイザー



オブザーバー
リチャード シーブルック
ウェルカム・トラスト
イノベーション・ビジネス開発部門長

選考委員会

[役割・機能] 申請者からのプロポーザル、及び進捗報告書の審査・評価／審査・評価結果に基づく理事会への投資案件の推薦／投資案件推薦に関する自立性、説明責任、透明性の確保



選考委員長

北 潔

東京大学名誉教授
長崎大学大学院 熱帯医学・グローバルヘルス研究科
教授・研究科長



選考委員

ラルフ クレメンズ

ワクチン専門家



選考委員

デニス シュマッツ

元米国メルク・リサーチ・ラボラトリーズ
感染症研究所所長
元日本MSD研究所所長



選考委員

ケン ダンカン

ビル&メリンダ・ゲイツ財団
Discovery & Translational Sciences部門
次長



選考委員

アン ミルズ ドゥガン

ウェルカム・トラスト
イノベーションズ・ビジネス開発部門
Seeding Drug Discovery Fund統括



選考委員

服部 浩二

名古屋市立大学特任教授
東北大学大学院医学系研究科非常勤講師



選考委員

ゲルド ミシェル

Vela Diagnostics
チーフ・サイエンティフィック・オフィサー



選考委員

森 康子

神戸大学大学院医学研究科
感染症センター臨床ウイルス学教授



選考委員

矢島 綾

世界保健機関西太平洋地域事務所
顧みられない熱帯病 専門官

アドバイザーパネル

[役割・機能] 会長、CEOおよびマネジメントチームへの戦略的な相談役



アドバイザー

アワ マリー コール セック

セネガル共和国保健大臣
元ロールバック・マラリア・パートナーシップ
エグゼクティブディレクター



アドバイザー

佐藤 玖美

株式会社コスモ・ピーアール
代表取締役社長



アドバイザー

ロレンゾ サビオリ

元世界保健機関NTDs対策部門
ディレクター



アドバイザー

ピーター シンガー

グランド・チャレンジ・カナダ
CEO



アドバイザー

ハーベイ V ファインバーグ

ゴードン&ベティ・ムーア財団プレジデント
元米国医学研究所所長



アドバイザー

穂積 大陸

Management Science for Health
保健医療技術担当 シニアディレクター



アドバイザー

マイケル ライシュ

ハーバード大学公衆衛生大学院
国際保健政策武見太郎記念講座教授

LEADERSHIP

リーダーシップ

外部審査員

世界中の感染症および製品開発の専門家が、GHIT Fundの外部審査員としてプロポーザルの評価を行っています。

Richard Adegbola	Nisha Garg	Nancy Le Cam Bouveret	Judy Sakanari
Yukihiro Akeda	Birgitte Giersing	James LeDuc	Ami Shah Brown
Peter Andersen	Ann Ginsberg	John Mansfield	George Siber
Rip Ballou	Glenda Gray	Carol Marzetta	KJ Singh
Lewellys Barker	Brian Greenwood	Greg Matlashewski	Peter Smith
Clif Barry	Sanjay Gurunathan	James McCarthy	Lynn Soong
Marleen Boelaert	R. Kiplin Guy	Carl Mendel	Dan Stinchcomb
Maria Elena Bottazzi	Lee Hall	Charles Mgone	Nathalie Strub-Wourgaft
Walt Brandt	Yoshihisa Hashiguchi	Gerd Michel	Marcel Tanner
Tom Brewer	Chris Hentschel	Toshiyuki Miura	Kaoru Terashima
David Brown	D. Gray Heppner	Melinda Moree	Katsushi Tokunaga
Nick Cammack	Toshihiro Horii	Kouichi Morita	Nadia Tornieporth
Simon Campbell	Sanjay Jain	Charles Mowbray	Bruno Travi
Eric Chatelain	Takushi Kaneko	Peter Myler	Takafumi Tsuboi
Robert Chen	Niranjan Kanesa-athan	Christian Ockenhouse	Moriya Tsuji
Simon Croft	Shigeyuki Kano	Giuseppe Pantaleo	Mickey Urdea
Peter Dailey	Subhash Kapre	David Persing	Stephen Ward
Thomas Dick	Paul Kaye	Meg Phillips	Timothy Wells
Carter Diggs	Naoto Keicho	Punnee Pitisuttithum	Bruce Weniger
Boro Dropulic	David Kelso	David Pompliano	John Westwick
Filip Dubovsky	Kent Kester	Regina Rabinovich	Judith Wilber
Hiroyoshi Endo	Akinori Kimura	Rino Rappuoli	Elizabeth Winzeler
Alan Fairlamb	Sue Kinn	Zarifah Reed	Michael Witty
Hermann Feldmeier	Harajeshwar Kohli	Rebecca Richards Kortum	Paul Wyatt
JoAnne Flynn	Somei Kojima	Paul Roepe	Donato Zipeto
Michael Free	Hidehito Kotani	Polly Roy	
Takashi Fujitsu	Sanjeev Krishna	Peter Ruminski	
Tamio Fujiwara	Michael Kurilla	Philip Russell	

パートナー

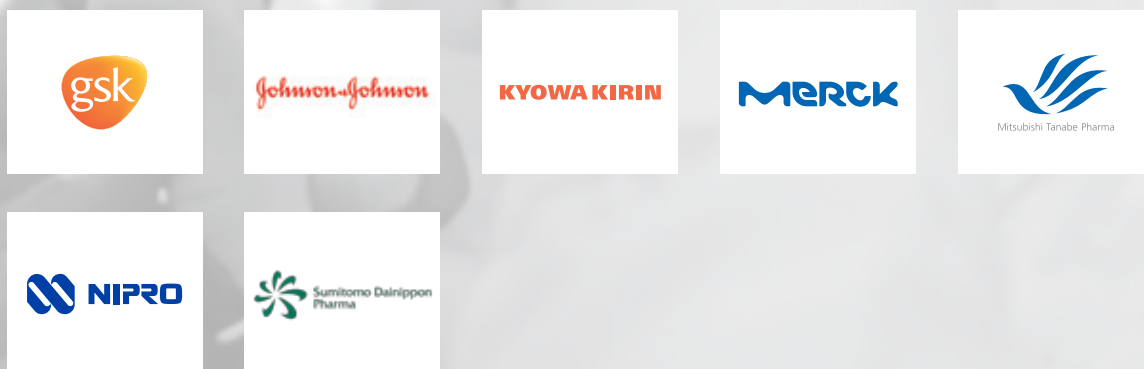
Full Partners



Associate Partners



Affiliate Partners



Sponsors





Global Health Innovative Technology Fund

Ark Hills Sengokuyama Mori Tower 25F,
1-9-10 Roppongi, Minato-ku,
Tokyo 106-0032 Japan
TEL:+81-36441-2032 FAX:+81-36441-2031
www.ghitfund.org